



## 四国観光 第四弾

### 徳島県編②

前回に引き続き徳島県の紹介です。今回は秘境の祖谷溪と伝統芸能、年中体験できる阿波踊りを紹介します。前号の鳴門、ドイツ兵との心の交流、四国巡礼とともに、四国路の春を訪ねるきっかけにしていただければ幸いです。徳島県大阪本部では最新の情報を手に入れることができますので、是非、お立ち寄りください。

#### 徳島県のあらまし

徳島県は東部は紀伊水道に、南東部は太平洋に面しています。北東部は鳴門海峡を挟んで淡路島と向かいあい、大鳴門橋で結ばれています。面積の約80%は山地で北側の香川県との県境に讃岐山脈、中央西部に四国山脈が東西に走っています。県内には北部に吉野川、南部に那賀川が流れています。上流に大歩危、小歩危と呼ばれる景勝地があり、清流として知られる吉野川は全長19.4km。水量豊かで農業用水として利用されていた反面、しばしば水害をもたらすことから関東平野の板東太郎(利根川)、九州筑紫平野の筑紫太郎(筑後川)とならんで四国三郎と呼ばれていました。吉野川の氾濫は、下流域に肥えた土壌を運び、染料として使われる藍の栽培が盛んとなりました。かつて徳島は全国一の藍染めの産地でもありました。

農業では農家一戸当たりの耕地面積は全国平均より狭く、小規模農家が多いのが特徴です。農業出荷額の高い割合をしめるのが野菜で、4〜5月のにんじんとカリフラワーの出荷量は全国一。すだちは、全国の生産量のほぼ100%が神山町で栽培されています。根菜のレンコン、鳴門金時も有名です。畜産業で盛んなのはブロイラー。阿波踊りにちなんで命名された軍鶏を改良した阿波尾鶏は、高級肉用鶏の地鶏では日本一の生産量。阿波ボーク、阿波牛も高い評価を得ています。

#### 体験したい阿波踊り

徳島県の観光を徳島市から始める方が多いと思います。タイムリーな観光情報を探すのに最適なのが「アクティ徳島」です。面白いのは2階の体験館。ひとくちで言うと徳島の観光を丸ごと体験できる場所。例えば阿波踊り演舞場。踊りのステップや身のこなしを有名連の映像に合わせてレッスンできます。クロマキー装置を使って自分の姿を有名連の映像と合成させることも可能。人形浄瑠璃のロボットによる上演や、本物のシロクチカズラ

で編まれたかずら橋などなど。祖谷の渓谷美を眼下に揺れる橋を渡るスリルは臨場感満点です。とにかく楽しみながら徳島観光のハイライトを体験できるので、ここで旅を計画することをお薦めします。

徳島と言えばやはり阿波踊り。本番は8月12～15日ですが、毎日、実演を見られるのが阿波踊り会館です。歌い出しにあるように「踊る阿呆に見る阿呆 同じ阿呆なら踊らにや損々」にならって参加するのもよいでしょう。阿波踊りは、踊らないとその魅力が分からないと言われます。

### かずら橋と人形芝居

四国山脈の中央部に位置する祖谷溪(いまだに三好市)一帯は日本三大秘境の一つです。標高1995mの霊峰剣山に源を発した祖谷川が四国山地を切り刻んでできたく字型の大渓谷が祖谷溪です。その上流にかかる「かずら橋」は、強靱なシロクチカズラを編んで作られた長さ45m、水面からの高さ14mの吊り橋で国指定の重要文化財となっています。度胸試しに恐る恐る渡る光景が微笑ましくも見えるスポットです。近くには尾島の戦いに敗れた平家の落人・平国盛が住みついた平家屋敷もあり、有名な平家の赤旗、名刀が保存されています。祖谷溪温泉にも近く、お湯はフッ素やメタホウ酸を多く含むアルカリ性単純温泉で殺菌効果が高く、肌がすべすべになると評判です。祖谷川添いの宿には、ケーブルカーで露天風呂まで案内する演出をする所もあり、秘境ムードは満点です。

阿波を代表する芸能に人形浄瑠璃があります。その歴史は古く、初代藩蜂須賀家政公の時代、農民たちの娯楽と慰安の為に始まったもの。阿波十郎兵衛屋敷(徳島市)では、お弓とその子お鶴の愁嘆を語る「傾城阿波の鳴門」が演じられています。日本人のメンタリテイの奥底に潜む親子別離の美学を、もっとも庶民レベルで表現しているのが、この人形芝居だと言われています。

伝統の技をもう一つ。徳島市は、吉野川や園瀬川の三角州に開けたまちで、その豊かな伏流水を使って藍染めが発達しました。阿波の藍は藩政時代より前に作られていたそうですが、代々の藩主が奨励し、阿波を代表する産物になりました。しかし、明治末期、インディゴなどの化学染料が輸入され天然藍による染めは急速に衰退しました。いまなお、木灰あくを使って藍建てす



強靱なシロクチカズラを編んで作られたかずら橋



阿波おどり会館

る純藍（天然藍）の業者はわずかですが、染めの工程見学、藍染め体験をとおして伝統美を伝えていきます。市政百年を迎えた年、ニューヨークの女性デザイナーによる藍の可能性をテーマにしたファッションショーも実現させています。今、藍は JAPANBLUE として再び脚光を浴びています。

徳島県大阪本部

大阪市中央区南船場3の9の10徳島ビル4階

電話06・6251・3273

<http://www.pref.tokushima.jp>

掲載の記事・写真・イラスト等の全てのコンテンツ無断複写、転載を禁じます。

(株)ファッションビジネス・御堂筋新聞